

まちづくり市民会議 第1小委員会議事録⑤

■日 時	2008年1月10日(木) 午後6時30分～午後8時30分
■場 所	太田市役所 10階 政策推進会議室
■出席者	委員9名 浦野委員長、宮越副委員長、相沢、境野、佐々木、 原澤、福島、荒井、早川 市2名 八代、田中 ※欠席委員2名 天竺、岡部

【概要】

1. 本日の会議の進め方

本日は意見用紙の提出が2件、地区役員等の資料が1件あるので、それぞれ説明をお願いしたい。今回も「相互理解の促進」と「問題点の整理と検討」を目的に自由な意見交換をお願いしたい。

2. 意見用紙等の内容説明

①資料【地区役員等の役割について】の説明

合併前に尾島地区で配付した資料を事務局で構成員・任期・報酬・所管課等の内容を再確認した一覧表となっている。市全体のものとして見て欲しい。

<質疑>

- ・区によって報酬等の取扱いが異なっている場合もある。また、合併前と後で変更になっているものもある。参考にしていきたい。
- ・民生児童委員は報酬なしとあるが、報酬はあるのではないか。第3回第1小委員会で事務局提出資料「区長に依頼している役員の状況について」によると報酬ありである。

②意見用紙【私の住む行政区の人口構成】及び追加資料に基づき説明

ある地区の人口構成について調査した結果を報告いたします。資料のとおり、高齢者社会となっている。また、現役世代が少なく、したがって子どもも少ない。「限界集落」の解説資料によると、55歳以上の人口が50%以上になると「準限界集落」であり、65歳以上の人口が50%を超えると「限界集落」となる。この地区は65歳以上の比率が、37.1%で5年後には45.2%、10年後には54.7%となり限界集落の入口に来ている。

市内の各地区の状況を確認してみる必要があるのではないか。まちづくりの議

論の観点になるのではないか。

<質疑>

- ・各委員の住む地区を調査してみるのもよいのではないか。
- ・行政でデータを持っているのではないか。把握していなければ、調査の有効性について提案してはどうか。まちづくりの基礎資料として大変有効である。
- ・この地区は、旧市街地で現在は空き地や空き家が多くなってしまった。住宅や商店、医療施設等のバランスのとれたまちづくりが望まれる。
- ・年齢別人口構成をみるとゆがんでしまった状況が一目で見て取れる。ゆがみを解消するような論議をし提案していきたい。
- ・この資料のように、グラフにすると説得力がある。東京などでも同じ状況の地域もあると聞いている。昼間人口は多いが居住人口が少ない地域などはその典型的な例ではないか。
- ・現状の傾向を調査して、その地域にあった施策が必要ではないか。どの様なまちづくりをしていくのか、ビジョンを立てるには現状を知る必要がある。
- ・北関東自動車道ができる。工業団地を造る。人口が流入することで、太田市が活性化するとは一概に言えない。市内の工業団地の現状は、稼働率が減少してしまっている。長期的な視点からまちづくりをすることが重要と考える。
- ・総論ではそのように理解できるが。個別に考えると、子どもを優良な企業に就職させて安定した生活をして欲しい。それには、都会に行く必要がある。太田にとどまるには、それなりの魅力が必要である。
- ・「札幌市」や「矢祭町」（福島県）など、まちづくりに関して成功しているところもある。調査して太田にあてはめてみてはどうか。おおいに参考になるのではないか。
- ・事務局で市が地区別・年齢別人口構成データを把握しているか確認して欲しい。さらに、太田地区や九合地区などの地区別に集計し、さらに旧太田市、尾島町、新田町、藪塚本町に集計して欲しい。

③意見用紙【太田市の財政状況】及び追加資料に基づき説明

先日市内大学の公開講座に参加した。概要を報告いたします。

太田市の平成18年度ベースで「実質収支比率」は4.5%である。これは3~10%が望ましく、都道府県で5%、市町村で20%以上となると地方債の発行が制限される。

「財政力指数」は、0.995で1を超えると普通交付税の不交付団体となる。

「経常収支比率」は、92.8%でこれは80%程度が望ましい。太田市は財政構造の硬直化の傾向がみられる。

「実質公債比率」は、14.4%で高崎市、伊勢崎市より高い、18%以上になると今後の財政運営の計画を立てて、許可を得る必要がある。

平成18年度の「収支状況」は、歳入が68,901百万円、歳出が66,556百万円となっており、義務的経費が50%程度となっている。歳入は50%を市税で確保しており、交付税や補助金を除くその他の歳入は26%となっている。

＜質疑＞

- ・まちづくりには財政的な裏付けも必要と考え資料とした。市の状況は、周辺他市との比較では「財政力指数」は良いが、「実質公債費比率」は高い水準で、今後の大型公共投資（市民会館、総合太田病院など）などを考慮すると楽観できない実情ではないか。
- ・第3小委員会で「まちづくり基本条例」について市議会議員へのアンケートを検討しているが、財政に関する事項もアンケート項目に入れてみてはどうかと感じた。
- ・M市が「実質的将来の負担」が小さい値になっているのはどのような理由からなのか。また、公債比率も低い。
- ・まちづくり市民会議と市議会議員との関わりが大切になってくると思う。市議会議員にもメッセージを発して行ければと感じる。
- ・ある通りでは、飲食店が多数進出している。地域によって極端である。どのような条件があれば出店してもらえるのか。
- ・企業、店舗は収益性のあるところにはどんどん進出するが、一方で魅力ある店づくりも必要である。そうすれば、どこに出店しても集客力がある。

3. 今後の進め方

- ・テーマを絞る時期に来ているが、意見がまとまってきた感がある。
- ・次回以降でテーマの絞り込みをしたい。各委員は考え方をまとめて、次回意見用紙で提出するか、次回委員会で発表して欲しい。
- ・過去の議事録を再読すると、どの様に議論の展開があったか確認できると思うので、各委員で復習をして欲しい。
- ・次回意見用紙については、1月28日までに提出をお願いしたい。
- ・議事録を作成し全委員に送付する。

●次回会議のお知らせ

- ・第4回定例会

【日時】1月25日（金）午後6時30分～

【場所】市役所10階 政策推進会議室

・第6回第1小委員会の開催

【日時】 2月7日（木） 午後6時30分～

【場所】 市役所10階 政策推進会議室